



2019-22年度第一地域RCの菅原裕典です。

いよいよ2021-22年度がスタートしました。各地区ガバナーの皆さん、クラブ会長はじめロータリアンの皆さん、今年もよろしくお祈りします。

昨年1年間は、ご承知の通り世界が「COVID-19」一色に染められたと言っても過言ではありませんが、様々な制約下にあっても、ロータリアンはクラブの運営と活動に最大限の取り組みをして、素晴らしい結果をもたらし、日本のロータリー100周年に相応しい年度だったと考えております。

さて、そうした中で今後更なる発展をしていくにあたっては、皆さんの地区、クラブの戦略計画は十分でしょうか？計画についてはガバナー、そしてクラブの会長が中心になり、それぞれの地区や地域に相応しい内容になっているものと拝察します。次は計画を如何に実行するかが肝要になりますが、取り組みには修正も必要です。その為には内部の方から定期的に意見を聞き、実行と同時に間断なく状況確認を行うことが大切です。また、外部の力を必要とするときには是非、我々地域コーディネーターをフルに活用してください。特に、戦略計画・会員増強についてはロータリーコーディネーター（RC）が数多くのアドバイスができるものと確信しています。とりわけ、今年度のシェカール・メータRI会長は、会員増強にとっても積極的な姿勢です。我々も目標の数値を達成し、未来のロータリーに継続していきたくて強く願っています。

先日、ローターアクターの方とお話する機会がありました。私がローターアクターの会員の女性と男性の比率はと尋ねたところ、おひとりの方のクラブは5対5、もうお一人の方のクラブは6対4だとの事でした。「何故、ローターアクターは女性会員の比率が高いのですか？」とお聞きしましたら、「女性はボランティアをしたくて入会しており、男性は多くの友人を作り、交流をしたくて入会している」という返答でした。もちろん、男女共通の目的もあるでしょうし、多様性もあるかとは思いますが、しかし、この差異はある意味核心を突いているかもしれません。例えばこのような視点やヒントが身近に数多くあるのにもかかわらず、そこに着目せず、結果、現状認識が不十分だという状況なのかもしれません。

また、ローターアクターの方々とロータリアンには若干の距離感が存在している場合があります。ロータリークラブでも今一度視点を変えて考えなければいけないこともあるかもしれません。時代の変化で価値観も変わりますし、地域の特性もあれば、会員構成の内容も異なります。今一度、現状認識を重視し、その年度や地域に相応しい地区・クラブ運営をしていこうではありませんか。

私たちRCは、第一地域・第二地域・第三地域の各地域にRC1名・ARC3名の4名体制で地域のお手伝いをさせていただきます。是非、直接ご連絡を頂き、協力をさせていただければ幸いです。

第一地域RC菅原裕典・ARC田中久夫・ARC福井敬悟・ARC石黒秀司

第二地域RC水野功・ARC神野重行・ARC松坂順一・ARC関邦則

第三地域RC滝澤功治・ARC中川基成・ARC庄司尚史・ARC安増惇夫

第1地域 ロータリーコーディネーター 菅原 裕典（仙台泉RC）



ロータリーのロゴの正しい使用方法を学んで下さい。

皆さんはロータリーのロゴという言葉が聞かれて、どのようなロゴを想像しますか？ブルーの文字でRotaryと書いて有り、隣に誇りのシンボルと呼んでいる歯車が黄色で描かれているロゴが頭に浮かんで来るのでしょうか？

強固なブランドを築くには、一貫したビジュアルアイデンティティが欠かせません。これは私達がロータリーのロゴを正しく使うことによって実現されます。統一感のあるブランドを世の中の人々に示し、ロータリーとローターアクトに対する人びとの認識と理解を高めるようにして下さい。ロゴの使い方の詳細は、My ROTARYにログインして、＜ニュース&メディア＞を選び、＜ブランドリソースセンター＞をご覧になることをお勧めします。ロゴの使い方はデザイナー、印刷屋さんなどロータリアン以外の人々にも解るように、ブランドリソースセンターへのアクセスは、brandcenter.rotary.org/ja-JP からも行えます。

まず、ロゴはデザインであり一つの塊として使うものであると理解して頂くようお願いいたします。フォント、色使い、配置なども細かく規定されています。これらの取り扱いについてはデザイナー、印刷さんが良くご存知です。自分達でロゴを分解して使うことは厳禁です。時々、歯車のマークを分解したり、歯車の中心に番号を入れたりして使っているのを見かけます。これらは、やってはいけないことです。7月から新年度が始まります。慣れない委員の方々が良かれと思って、歯車の中にクラブ名や地区番号などを入れて使う事が有ります。注意してチェックをお願いします。

また、RIはクラブ、地区、ゾーンがロータリー公式ロゴを単体で使用する事は認めていません。この事は多くの方が忘れています。クラブ、地区、ゾーンでロータリーのロゴを使用する場合、ロータリー公式ロゴにクラブ名または地区番号、ゾーン番号を必ず入れるようにお願いします。複数の地区やゾーンの番号を入れることもできます。公式ロゴの上または下に、クラブ名、地区番号、ゾーン番号以外の言葉を入れることはできません。クラブ用、地区用、ゾーン用のロゴは、ブランドリソースセンターにあるテンプレートを使って作成できることを覚えておくと便利です。

協力団体、スポンサー、イベントとロゴと一緒に使いたい場合には組み合わせロゴが使用できます。組み合わせロゴを使う場合の規則もブランドリソースセンターで説明しています。

RLI（ロータリー・リーダーシップ・インスティテュート）は、ロゴの中心に歯車のマークを入れていました。皆様方の中にも、RLIの全課程を履修して終了の証としてロゴバッチを贈られた方がおられると思います。RLIもRIから勧告を受けて、ロゴの中心を地球のマークに変更しています。

また、米山記念奨学会も、RIの規程に則りロゴの見直しを実施しています。

皆様方におかれても、新年度のスタートに当たり、地区やクラブで使われていたロゴの見直しをされることをお勧めします。

第1地域 ロータリー公共イメージコーディネーター 井原 實（さいたま新都心RC）